
君への想い

ダディ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君への想い

【Nコード】

N3296U

【作者名】

ダディ

【あらすじ】

主人公を巡る学園ラブコメ小説だと思う。初作品なので誤字脱字があるとおもいますが、よろしければ読んでください。

キャラ紹介（前書き）

キャラ紹介です

キャラ紹介

キャラ紹介

鈴木 裕兜：本作の主人公モテていることに全く気付かない絵に書いたような鈍感男。自分ではモテていないと思っている

鈴木 恵美：主人公の妹である。まあ過度のブラコン裕兜に近づく女が居れば全力で排除する。戦闘力は某ボール集めるアニメの主人公に匹敵する。

長瀬 美樹：主人公の幼なじみ昔から裕兜のことを意識しているが性格上素直になれないでいる。裕兜とは何かあるたび口喧嘩している。

宮崎 千早：主人公たちの後輩内気な性格でなかなか自分の気持ちに人に言えない。ある事をきっかけに裕兜に恋している。

篠崎 美佳：主人公が所属する科学部の部長何かあるとすぐに裕兜を引っ張り回すというはた迷惑な人である。

沢井 加奈：裕兜のクラスメートで委員長いつもバカやっている裕兜と猛にはいつも怒っている。

平沢 つかさ：裕兜のクラスメートで天然キャラいつも裕兜にべたべたしていてそのたびにクラスの女子から殺意のこもった視線がぶつけられるが本人は全く動じない。ちなみに裕兜に好意を抱いてるわけではない。本人いわく「裕兜君抱き心地がいいんだもん！」らしいです。

瀬川 真子…学園のアイドル。自分は他人とは違っていると囲いを作って生活している

岡崎 猛…裕兜の中学の時から悪友いつも裕兜にかかわれている。

キャラ紹介（後書き）

主人公の友達のキャラを少し変えました

第1話（前書き）

第1話です

第1話

ある日の朝俺はいつものように起きた…

しかし、腕に妙な重さがあることに気付き視線を隣に向けてみたら…

恵美「ZZZZZ…」

裕兜「……」

そりゃあ重いはずだ…謎が解けてすつきりした……

裕兜「つて！んなわけあるかー！」

恵美「ふにゃー！何！？何があつたの？」

驚いてる俺の妹がいた

裕兜「何があつたの？じゃねえー！」

裕兜「何でお前が俺のベッドにいる？そしてどうして俺の腕を枕にしている？」

俺は怒鳴り散らした。そしたら妹は…

恵美「お兄ちゃんのこと好きだからだよ？きゃ！言っちゃた」

と言ってくれた

裕兜「言っちゃたじゃねえー！お前は俺の妹じゃねえかー妹に告白されてもうれしくも何ともねえーんだよ！」

言ってやった…すっきりしたと思っていたのも束の間

恵美「もう照れちゃてかわいいなあーもう」

俺生きてるなかでいま一番の殺意が芽生えているがしかし、その殺意を遮るように母親が入ってきた

母「……………ぐゅっくりー（ニコー）」

ガチャン！

……………もしかしてあらぬ誤解が…

裕兜「じゃねえー！母親ならこの状況を見て他の事が言えんのかー！」

と、仕切りに叫んだらあのバカ母がまた入って来た

ガチャ

母「やあねえー冗談じゃないホホホ」

殺意がまた芽生えた…俺の家族にまともな奴は居ないのか…と思った矢先時計を見たら…

裕兜「ああー！ち、遅刻だー！」

時計の針は8の文字をかなり過ぎていた。

母・恵美「のろまねえ」

裕兜「誰のせいだー！この帰ったら覚えてろよ！」

制服を来て出ていこうとすると

母「朝ごはんは？」

という母親のばか発言に完全にキレた

裕兜「食えるわけねえーだろーが！」

そして玄関にダッシュしたその仕切りに妹のばか発言が聞こえた

恵美「キレやすいのはカルシウムが足りないからだよーお兄ちゃん」
「」

俺はもう怒鳴る気にもなれなかったからそのまま家を出た。

第2話（前書き）

第2話です

第2話

家を出て学校に向かっている途中

裕「はあゝ酷い目にあつたな…」

走りながらそんなことをつぶやいていた。

美「遅い！いつまで私を待たせるつもりよ！」

裕「別に待つてとは言つてないが…」

美「うるさい！口答えすんな！」

この自分勝手な女は俺の幼なじみの長瀬美樹である。

まあ容姿はかわいいと言つてもいいかもしれない実際にモテているからしかし、性格が最悪である。

常にツンツンしている。そのためある一部の人達からはかなりの人氣があつた。

まあ俺にはよくわからんが…

美「なにボーっとしてんのよ！」

裕「何でもないよ…」

美「ほら！さっさと行くわよ！」

俺と美樹は学校に向かって走った。

猛「ふふふ…朝から仲がいいじゃないか…んふふふ」

朝から変態が絡んできた。

裕「なあ美樹こいつ誰？」

美「えーとバカ？」

裕「ああ！バカか！久しぶりだな…最後にあつたのは2世紀半前のロシアだったか？」

猛「俺何者！？てかあんた何年生きてんだよ！？」

裕「いや…前世の記憶？」

猛「前世の記憶ってあんた何で覚えてんだよ！！」

裕「いやなんとなく？」

猛「すごく曖昧ですね！？」

裕「うるさいぞバカ！朝からお前のような変態に構ってる暇などない！」

猛「酷くない！？」

朝からギャーギャーうるさいやつだ…こいつはバカ山バカ太郎俺の悪…バカ「違うからね！？何心で俺の名前間違えてるの！？俺猛

だから…っておい表示がおかしいだろ!？」

俺の心にまで突っ込んできたやつはバカじゃなくて俺の悪友の岡崎猛だ。

いつもこうやってからかっている。

裕「さて学校に行くか…あれ?美樹は?」

気づくと美樹がいなくなっていた。

美樹「裕兜ー!先に行くから!」

居た。かなり前方で大きく手を振っていた…

裕兜「ああ…ってそうだ!俺遅刻しそうだったんだ!」

バカに構ってる間にもう完全に遅刻だ…バカのせいだ…

猛「なんかものすごくバカにされてる気がするのは何故?」

裕兜「きのせいだバカ」

猛「おいしいい!きのせいじゃねえよ!?!いま明らかにバカって言ってるじゃん!」

さてバカはほつといてさつさと学校に行くか…

猛「ちょ!?!待ってよ一緒に行こうぜ!?!」

バカが何か言ってるがもう遅い俺は既にやつを10m以上離しているからな！フハハハハハ！

猛「ちょ！？速くない！？」

そして学校…

美樹「遅かったわね…裕兜」

裕兜「ハアハア…置いてきぼりにしてその言い草はないだろう…」

美樹「うわぁゝ息荒いちょっと近づかないでよ…変態！」

なんてやつだ人が一生懸命走って来たってゆうのに…

裕兜「……………」

美樹「ちよつと冗談じゃないそんな目で私を見ないでよ！」

ハアゝこいつはもう少し性格を改めるべきだ

裕兜「で、俺のクラスは？」

美樹「A組私と一緒に」

裕兜「えゝまたお前と一緒にかゝ小学生の頃からクラス別になったことないじゃん…」

美樹「し、知らないわよ！私に言わないでよ！」

猛「ふふふ…お前達は切っては切れない運命で繋がっているのだな
…んふふふ」

裕兜「また出たな変態」

猛「ちよっ！？先から俺の扱い酷くない！？」

バカがうるさいが美樹と一緒にクラスに向かうことにした

猛「ちよっと！おいていくな〜！」

美樹「ここね」

裕兜「みたいだな」

俺達は1ーAと書かれた教室に入った。

裕兜「さてと席はどこかなと」

猛「ここだよ。マイフレンド」

変態が居た。てかいつのまに…先はクラスの発表掲示板に居たのに…

猛「俺が本気を出せばこんなもんさ」

くそ！こいつに心を読まれたのがめちゃくちゃ悔しい

裕兜「お前と友達になった覚えはないぞ…変態野郎！」

猛「ちょ！？あんた酷すぎませんかね！？」

裕兜「話すな！空気が汚れる！」

猛「いやいくらなんでも酷すぎませんかね！？」

裕兜「話すなと言っててるだろうが！お前が話すと地球が破壊される！」

猛「あの…」

裕兜「喋るなー！！」

ドガッ！！

猛「ぐぼああー！！！」

裕兜「ふう〜こうして世界が守られていく…」

美樹「何バカやってんだか…」

そんなこんなで入学式も終わりHRでの自己紹介の時間

美樹「長瀬美樹です。よろしくお願いします。」

男子「おおー！」

やっぱり美樹はモテるな〜

猛「妬くな妬くな」

裕兜「生きていたか…変態」

猛「ねえそろそろ会話しようよねえ!？」

そんなに必死にならんでも…

裕兜「わかったよ…猛」

猛「おいそれより次の奴一年生の中でアイドルの人気がある奴だぜ!」

そう猛が力説した

裕兜「アイドルねえ」

瀬川「瀬川真子です。皆よろしくね」

男子「キター…!!」

女子「瀬川さんと同じクラスなんて感激!」

裕兜「すごい人気だな…」

猛「当たり前だろ?今じゃ学園のアイドルと言っても過言じゃないぜ?」

裕兜「今って入学したてだろ?」

猛「甘いな…裕兜…アイドルになる素質がある奴はすぐにでもアイドルになれるんだぜ?」

裕兜「ふ〜んそういうもんかね？」

猛「ああ言っていたが正直よくわからん

猛「おい裕兜次の子結構可愛いぞ！」

裕兜「ん？」

平沢「平沢つかさでしゅ。はうう／＼／＼えへ／＼／＼噛んじやいました。／＼／＼どうぞこんなおちよこちよいですがよろしくお願いします。」

男子女子「可愛いいいー??」

これまたすごい人気だな…

猛「うおおお!!!か・わ・い・い!!」

後ろの変態がうざい

先生「静かにしろ！」

先生がそういうと周りはシーンとなった

沢井「沢井加奈です。よろしく。」

うわぁ委員長みたいなキャラ来たよ…

猛「堅物ぽいけど結構可愛いな？」

裕兜「まあ確かに顔は可愛いが…」

そつ沢井ってやつは堅物っぽいけど顔は美樹に負けず結構可愛い…

猛「岡崎猛です。よろしく？ついでに彼女募集中です！」

しらーん

ああシラけたバカだな…确实今年は独り身決定だな…哀れだ…

裕兜「次は俺か…」

裕兜「鈴木裕兜だ。よろしく。」

……………

女子「キャーーーーー！！！」

おいおいそこまで驚くことないだろう確かに顔はカッコよくないが騒ぐまで酷くないだろうが…

猛「こうして今年も皆お前の虜になっていくだな…このラブルジョワめ」

なんだよ…ラブルジョワって…てか美樹がものすごい殺気が籠った視線を俺にぶつけているんだが…俺なんかした？

第2話（後書き）

作者「やつと書き終わったな…」

猛「おい！作者！俺の扱い酷くない！？」

作者「え？あんた誰？」

猛「おいしいい！自分の書いた作品の登場人物だろ！？忘れんなよ！？」

作者「ああ…変態バカ？」

猛「ちげえええよ！」

作者「ああ！もうじかんだ！裕兜次回予告よろしく！」

裕兜「え！？いきなり！？えーと次回は新しいヒロインと俺のデートシーンがあるらしいってデート！？ヤバい！？逃げなきゃ！」

美樹「どこに？」

裕兜「え！？」

恵美「覚悟はいい？お兄ちゃん？」

裕兜「ちよっ！？二人共落ち着いて！」「
い、いやーーーー！！！！」

作者「やれやれそれではまた次回！」

猛「え！？あれ俺の扱いについては！？」

作者「ああ…悪くなることがあっても良くなることはないよ所詮バカだしな」

猛「酷っ！？」

作者「じゃあ今度こそまた次回！」

第3話（前書き）

第3話です

第3話

こうして自己紹介も終わりHRでは先生のくそ長いテンプレ話を聞いている…

裕兜「……………ハァ」

ちよんちよん

ん？なんだ？誰かに肩を叩かれたような？

ちよんちよん

ふと隣を見ると俺の肩をちよんちよんと叩いている。女子がいた…えーと確か……

裕兜「平沢……さん？」

平沢「うん！正解！」

なんかわからんが正解した……いやいやそうじゃなくて…

裕兜「何か用かな？」

平沢「別に用って訳じゃないんだけど隣同士だからこれからよろしくということであれだけ挨拶してみました！」

なるほどね…まあ確かに隣同士なら友好関係を作りやすいな…

裕兜「そうか…よろしくね平沢さん」

平沢「さんはつけなくてもいいよなんならつかさでもいいよ!」

裕兜「いやいくらなんでもいきなり下の名前は…じゃあ平沢ってことで」

平沢「うん!よろしくね裕兜くん!えへへ／＼」

そういうと平沢は俺の手を握った…おいおいくらなんでも異性相手にこんなことまでするか?俺以外だったら勘違いレベルだぞ?

平沢「ああ!そうだ!今日の放課後空いてる?もし空いてるなら買い物に付き合って欲しいんだけど…」

おいおいいきなり会って間もない俺を買い物に誘うか?てか上目遣いやめてくれすぐ可愛いし上目遣いされると嫌でも断れないんだぜ。男という生物は…

裕兜「……………別にいいぜ」

平沢「本当!?やたー!」

ああ負けたよ負けましたよ……………平沢可愛いしそんな子に上目遣いされて断れるやつは男じゃないぜもしくはホモだ

先生「……………ジー」

ん?なんだ?先生がこっちを見てる

先生「ゴホン！えー仲が良いのはわかった…だが今は先生が話しているんだが…」

し、しまったー！！今がHR中だということを忘れてたー！！

裕兜・平沢「す、す、すいませー！！ん！！」

クラス中がドツとわいた

そしてHRも終わり皆が帰り支度をしてるとき…美樹は男に囲まれていた…さすがだ…だが…2秒も持つまい…

美樹「あんたらウザい！いくら話し掛けてもあんたらなんか相手にしないから！ミジンコ以下のゴミ共が！」

うわぁゝ酷っ…ほら見る皆自信喪失したような顔で逃げ帰ってくじやないか…

平沢「じゃあ行こうか裕兜くん」

裕兜「ん？そうだな…そろそろ行くか…」

猛「己裏切り者めゝ！！」

変態がなんか言ってるがしらんな

美樹「デート楽しんでね」

裕兜「別にデートじゃないんだけど…」

美樹「ふん！知らない！」

そついうと美樹は教室を出ていった

裕兜「何なんだ？」

平沢「裕兜くーん早く行こう！」

裕兜「ああ…今行く」

こうして平沢と買い物に向かった。

裕兜「さてと平沢は何買いに来たんだ？」

平沢「んーと服とかかな？」

裕兜「かな？って決めてないのかよ…」

平沢「女の子にとって見てまわるのも楽しいんだよ！」

裕兜「ふーんそんなもんか…」

そして…服屋

平沢「ねえねえ！これどうかな？」

裕兜「うん可愛いんじゃないか？」

平沢「えへへ／＼／＼そうかな…」

このやりとりをしてもう1時間近く…ハアゝ何で女って奴はこう買い物が長いんだ…

平沢「ねえこっちはどうかな？」

裕兜「平沢は素で可愛いんだから何着ても似合つと思つぞ？」

平沢「えへへ／＼裕兜さんにそう言つて貰えると嬉しいな…よし！決めた！これにする！」

やれやれやつと決まつたか…

平沢「買つて来たよ」

裕兜「それじゃ帰るか」

平沢「うん」

帰り道で平沢がクレープを食べたいと言つたから俺は今クレープを買つてゐる訳だが…何故だ？何故数分独りにしただけで不良に絡まれるんだ？いや確かに平沢は可愛い…だからといってこんな短時間で絡まれることないんじゃないか？アニメやマンガじゃあるまいし…ハアゝ仕方ないか…

不良1「いいじゃん。俺らと一緒に遊ぼうよ！」

平沢「あの…でも…私…」

不良2「うひょー可愛いー！いいじゃん一緒に行くつぜー！」

平沢「きゃ！？やめて下さい！？離して！？」

不良1「いいからいいから」

裕兜「おい！その子の手を離せ！」

不良2「あ？なんだてめえ？」

裕兜「もう一回言っぞ？その手を離せ……」

不良2「おいおい？あんまふざけてると殺すぞ！？」

裕兜「これが最後だ…手を離せ……」

不良2「てめえ！」

不良1「おい！やめろ！そいつは………だぞ」

不良2「え！？ま、マジかよ！？」

裕兜「……………」

不良2「あ、あ、あははそのすいませんでしたー！ー！」

そういうと不良共は逃げ帰って行った。ふうくよかったく高校入学したててケンカはあんまりしたくないからな…

平沢「う、う、う」

裕兜「平沢もう大丈夫だぞ？」

平沢「うわああああん！！怖かったよ！裕兜くーん！」
ガバッ

裕兜「おい！なにいきなり抱き着いてんだよ！やめろって」

ちよー！？いきなり何なんだよ！？健全なる男子高校生にそんなこと
すると理性が…ああいい匂いが…ああ女の子ってこんなに柔らかい
のか…ってやばいやばい！保つんだ俺の鋼の理性！

平沢「ひつく、ひつく、離れなきゃ駄目？」

ちよー！？それ！？反則！？涙目で上目遣いとかむりだろう！

裕兜「いいよ好きにしてくれ…」

それから数分後

平沢「ゴメンね…怖かったからつい…」

裕兜「別にいいけど気をつけろよ。お前可愛いんだから…」

平沢「うん…大丈夫！抱き着くの裕兜くんだけにするから！」

裕兜「まあそれならいいけど……ってんなわけあるかー！！」

平沢「ふえー！？」

裕兜「ふえー！？じゃねえー！そういうのは好きな奴とやれ！」

平沢「え？私裕兜くん好きだよ？」

裕兜「な！？／／／」

平沢「えへへ／／／駄目？」

裕兜「ハアゝ勝手にしてくれ…」

多分平沢の言う好きは友達としてことだろう…でもあんなに可愛い
かおして上目遣いされたら弱いな…おれ…

裕兜「じゃあ帰るか…」

平沢「うん！でも…クレープ食べそこなっちゃたね…」

裕兜「それはお前が抱き着いてきたからだろうが！」

平沢「うん…ごめん…でも裕兜くん抱き心地よかったよ！」

裕兜「ハアゝそりゃどーも」

もう何も言つまい…そのあと平沢を家まで送り届けてから自分ちに
帰った

第3話（後書き）

作者「書き終わったな…」

裕兜「……………」

作者「あ、あれ？ゆ、ゆ、裕兜？」

恵美「ふう〜…さて次は…」

美樹「作者ね」

作者「え！？ちょ！？なんで！？」

恵美「なんで？それはねお兄ちゃんが私以外の人とラブラブデートを書いた罰」

作者「いやだってこれラブコメ作品だし…」

美樹「問答無用！！」

作品「ギャーーーーー！！」

恵美「ふう〜やれやれ」

瀬川「次回は私と裕兜くんのラブラブエピソードです。楽しみに！」

恵美・美樹「何！？」

作者「やれやれ酷い目にあつた…ってえ！？もついや——！！」

恵美「まったく書くなら私との話にしてよね…」

平沢「じゃあ皆また次回！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3296u/>

君への想い

2011年12月25日13時46分発行